

出石町史

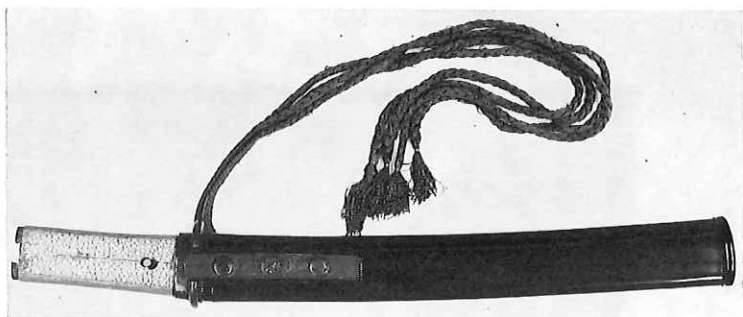
第二卷  
通史編下





白磁籠目菊花貼付花瓶（明治期）神戸市 兵庫県陶芸館蔵





1 桂小五郎脇差 広戸順子氏蔵



2 旧郡役所建物

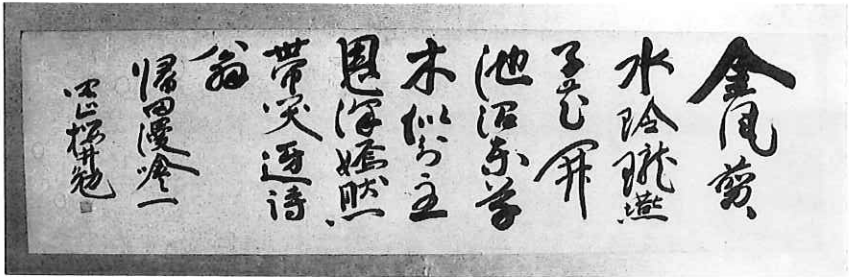
表



裏



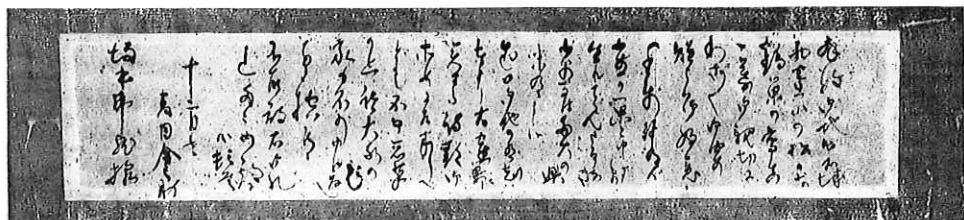
3 第五十五国立銀行発行の五円紙幣 但馬銀行出石支店蔵



4 榊井勉筆 県立出石高等学校蔵



5 歌舞伎衣裳 小幡謹一郎氏蔵



6 夏目漱石書簡 坂本典三郎氏藏



7 加藤弘之筆横額 弘道小学校藏

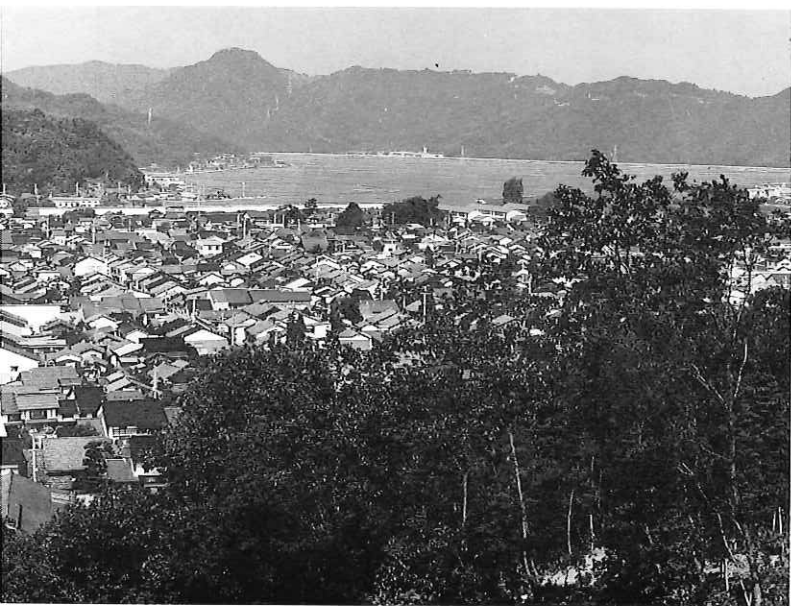


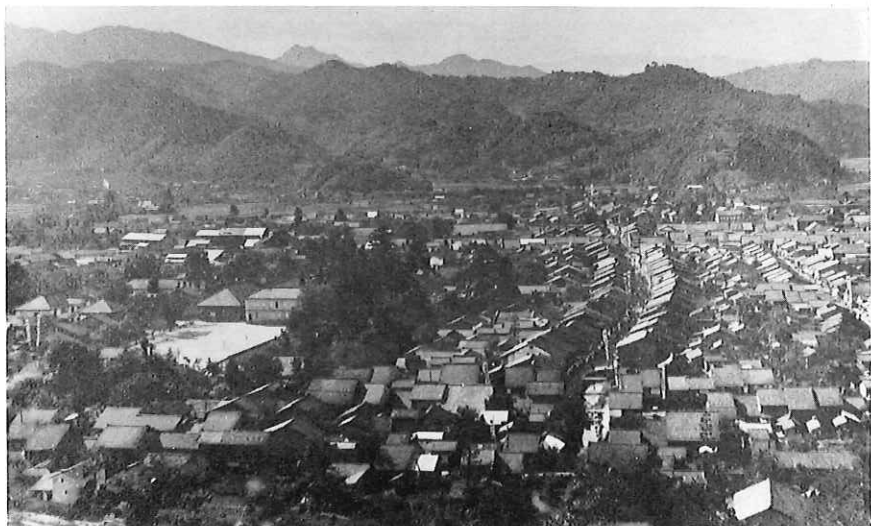


8 登り窯 (大正末期) 宮崎昌美氏提供

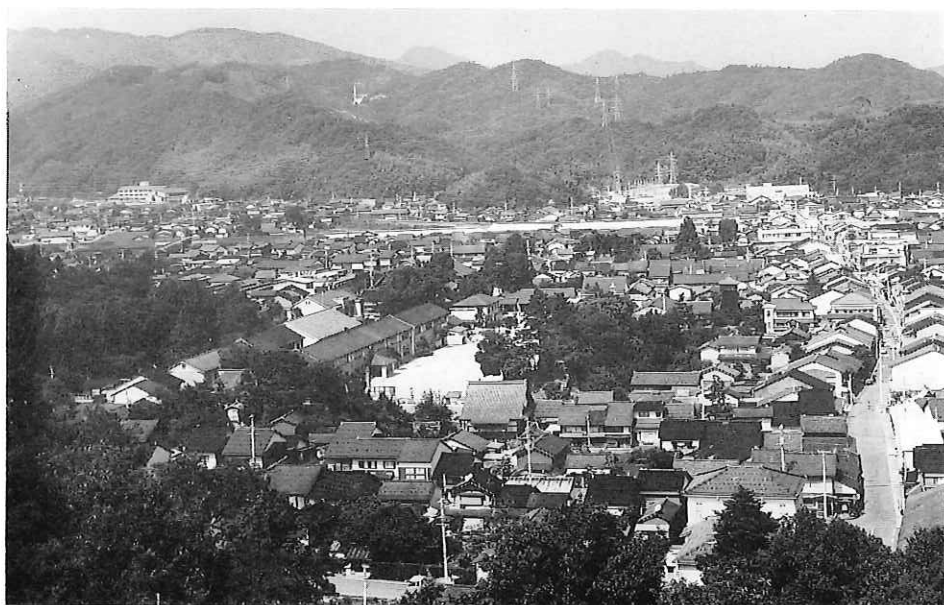


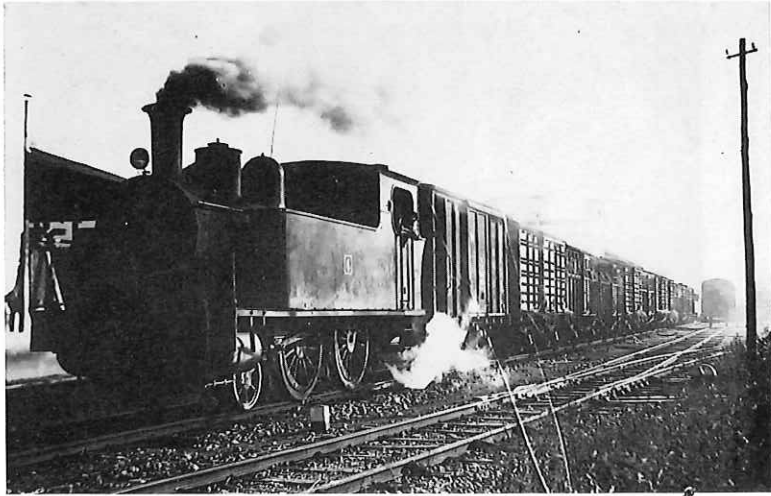
宮崎昌美氏提供





9 入佐山からの眺望 大正末期(上)と現在(下)

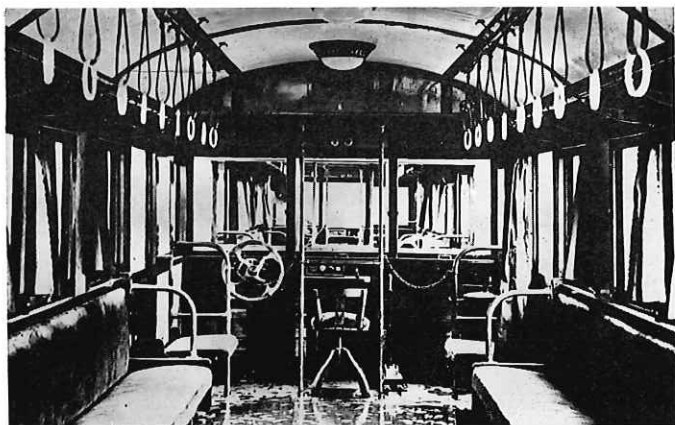




10 出石鉄道蒸気機関車（貨物列車）



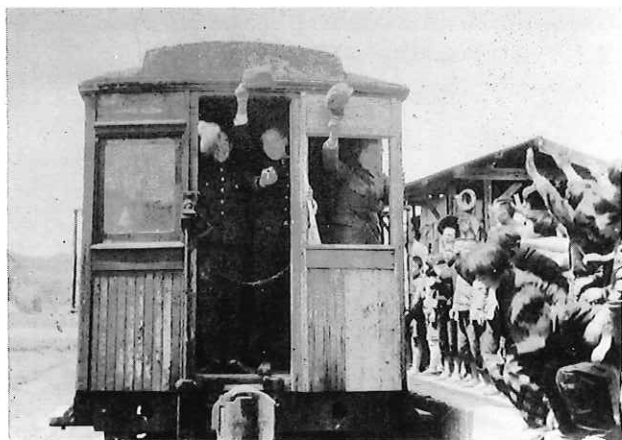
11 出石鉄道出石駅（開通前の光景）



12 出石鉄道ガソリンカー客車内部 (1929年〔昭和4〕)



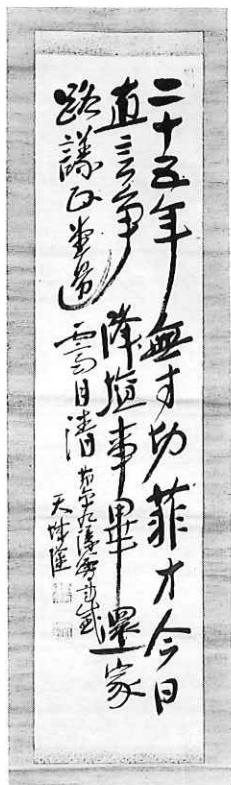
13 出石鉄道社章



14 出石鉄道島口駅 (1938年〔昭和13〕ごろ)



15 出石川の浅瀬で憩うコウノトリ (1959年〔昭和34〕出石町伊豆にて)  
豊岡市 高井信雄氏撮影 (富士光芸社提供)



— 肅軍演説後の感懐 —  
 二十五年寸功無し  
 菲才今日直言して争う  
 降壇の事畢って家路に還る  
 詠事堂辺り、霽れて月清し

16 齋藤隆夫書  
 但東町 岡田徳太郎氏蔵

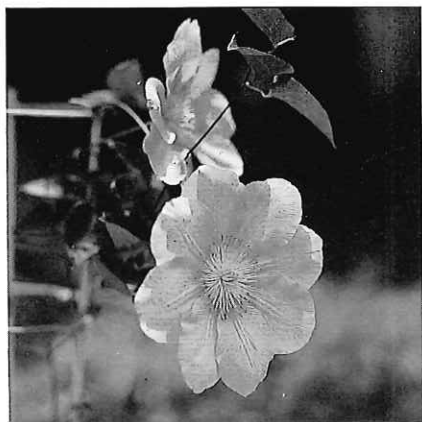


17 静思堂 (齋藤隆夫記念館)



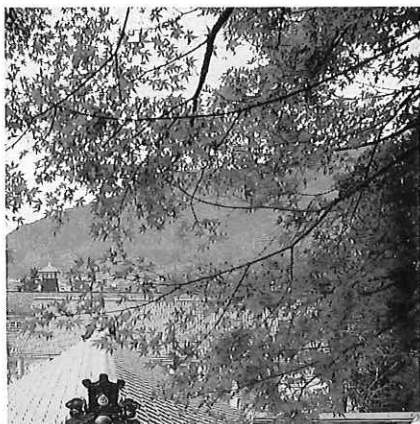
18 町章

(1958年〔昭和33〕2月14日制定)  
住民の力強さと和を表わし、未  
来に向かって大きく躍進する町  
の姿を象徴している。



19 町花

(てっせん・1982年〔昭和57〕8月19日指定)  
昔から茶花として愛好されてきたが、咲き  
きった花容のみごとき、しずかで上品な美  
しさは出石町を象徴する花にふさわしく、  
本町に自生している。



20 町木

(もみじ・1982年〔昭和57〕8月19日指定)  
日本を彩る代表的な景観として古代からよ  
く詩歌にもうたわれ、古い歴史と文化遺産  
に富む城下町出石にふさわしい。



# 序

但馬の首邑しゅゆづとして栄え、政治・経済・文化と、その隆盛を誇った我が町も、近代という新たな潮流の前に隔絶と衰微の途を余儀なくされ、いつしか、かつての雄姿は脈々と綴つづられる歴史の一コマを飾り、ひとときわ光彩を放ちながらも、その一コマの内に留とどめられてしまうといったように、栄枯盛衰の感を強く抱かせます。

しかし、我がふるさとは、幕末・明治・大正・昭和と数多くの先達を輩出してまいりました。動乱と安寧の時代を背景に我が国の各界を背負い、先駆者としての名をほしいままでにしてきた先人の姿と偉業に畏敬いけいの念を禁じ得ません。

ふるさと創生を時勢とする昨今にあって、それぞれの時代を精一杯生きた先達たちの足跡が、彼らの使命感によって培われてきたように、明日の出息を拓ひらく私たちにとって、今新たな使命感のもとに「豊かで住みよい町づくり」の体現に向けて一路邁進まいしんすることが以前にも増して強く求められています。

この度発刊の運びとなりました本書が人づくり・町づくりの一助になりま  
すれば、この上ない喜びといたすところです。

おわりになりましたが、執筆・編集等に携わっていただいた先生方をはじめ、関係各位並びに貴重な資料を提供くださった方々、又資料を補うための聞き取り調査にご協力願った方々に厚くお礼申し上げます。

平成三年三月

出石町長

針田賢一



## 凡 例

- 一、「出石町史」は、通史編上・下、資料編Ⅰ・Ⅱの四巻よりなる予定であるが、この巻は第二巻として、幕末維新时期以降から現代までの通史を収める。
- 一、本文の記述は、原則として常用漢字、現代かなづかいによった。但し、固有名詞や特殊な用語については、これによっていけないこともある。
- 一、読みにくい漢字には、できるだけ初出（小見出し）のところで、ふりがなを付けるようにつとめた。
- 一、数字は、原則として固有名詞以外は、一、二、三、……九、一〇を使用し、単位を表わす十、百、千は使用していない。但し、万単位以上はこれを使用した。
- 一、年紀の表記は西暦により、日本年号は（ ）内に付記した。但し、同一節内で頻出する場合は省略したものもある。
- 一、人名は、原則として敬称を省略した。
- 一、本文記述のなかには、学界諸家の研究成果を採用した箇所があるが、本書の性質上特別の場合以外は、その氏名、出典を示さなかつた。

一、写真・表・図は、それぞれ一連番号を付した。また、巻末に写真・表・図の一覧表を添えた。

背文字および扉文字は出石町長升田賢一筆。

# 出石町史 第二卷 目次

## 第一章 幕末・維新期の出石

この章のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・二

### 第一節 幕末期の政情と出石藩・・・・・・・・四

藩主の直裁体制 京都警衛に派兵 三条西季知、多田弥太郎を所望

大和行幸の詔勅にとまどう 八・一八政変に増援部隊出兵、直ちに帰藩

多田弥太郎暗殺に重臣らを処分 禁門の変に領内警戒体制を強化 桂小

五郎、出石に潜伏 桂小五郎、長州へ帰る 仙石鋭雄政固、藩主の養子

に 征長戦下、西の下谷に一揆 洋式銃隊養成に着手 仙石政固、極

密之書 大政奉還後の出石藩、佐幕色濃厚

### 第二節 明治維新期の出石藩・・・・・・・・三

鳥羽・伏見の戦いに幕軍潰走 正月八日、藩主上京の途に就く 西園寺

鎮撫総督へ従兵を派遣 鎮撫総督随行記録 京都出陣は全藩士のおよそ

三分の一 兵制改革 藩治職制に基づく藩政改革 議事機関設立

版籍奉還と出石藩財政 大・少参事体制発足 改革の度ごとに階層秩序  
 色減衰 荒木家・仙石主計家の消息 仙石騒動についての回想 弘道  
 館、文校と武校に分かれる 女学校設立 市校・郷校設立 村・町役  
 人の組織改革 戸長・副戸長任命

## 第二章 近代社会への歩み

この章のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六四

第一節 廃藩置県・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 六六

廃藩の詔書 出石の反響 空米切手の停止 肩代わりされた藩債  
 廃藩を予期していた藩知事 仙石政固の東京移住

第二節 つかのまの出石県治・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 一〇一

出石県の発足 但馬三県の合併伺い出 出石県の廃止と新豊岡県の発足  
 不安を呼んだ札引き換え 常備兵隊最後の出兵 戸籍編制区と戸長の任  
 命 市校・女学校の廃止 種痘反対者の処罰 豊岡県支庁出石局

豊岡県出石出張局 土族の失職

第三節 大区・小区制の施行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 二七

新豊岡県の区制実施 区費の賦課と旧役職の改称 大区・小区制の実施



大区・小区制の推移 警察出張所の設置

第四節

豊岡県から兵庫県へ・・・・・・・・・・・・・・・・一三五

豊岡磨県と大兵庫県の成立 兵庫県併合の功罪 豊岡県再置運動

第五節

郡区町村編制法による郡と町村・・・・・・・・一三三

地方三新法の制定 復活した郡と町村 出石気多郡役所の発足 復活

した町村と最初の戸長役場 戸長役場管轄区域の拡大 戸長役場管轄区

域の是正 戸長役場区域の再拡大と戸長官選 町村会の発足 出石郡

町村聯合会と郡民惣代 但馬国各町村聯合会 自由民権運動と兵庫県の

の発足 自由民権運動の波及と回天社 立憲改進黨の進出

第六節

秩祿処分と士族授産・・・・・・・・一五

「藩制」布告による家祿の再削減 士族の帰農商と家祿奉還 金祿公債

の下付 旧出石藩士族の家祿追給願 転職士族の職業と生計 明治九

年の出石大火事 大火の影響 士族授産事業の着手 士族子女の富岡

製糸場派遣 拡産社の製糸工場 第五十五国立銀行の創立 士族銀行

から地主銀行へ 第五十五国立銀行の業態 農業改良の推進 通信・

運輸の諸施設

第七節

地租改正と土地制度の変革・・・・・・・・一八三

地租改正のねらい 田畑勝手作の許可と市街地券 土地売買の解禁と主

第三章

明治後期の出石

申地券 地租改正の実施 豊岡県の地租改正事業 山林原野の改租  
 地租改正と桜井勉

第一節

この章のあらまし 一九四  
 地方自治制度の確立 一九六

町村制の施行 地方自治の発足 出石郡役所の役割 歴代町村長と町  
 村役場

第二節

立憲政治の進展 二一〇

立憲政治のスタート 出石出身代議士の顔ぶれ 激烈な政争の実態  
 有権者の推移 士族の政治力の低落 加藤弘之と斎藤隆夫の論争 出  
 石郡選出兵庫県会議員たち

第三節

日清・日露の両戦役 二四一

出石の兵制 日清戦争と出石 日露戦争と出石 出石出身の軍人たち  
 戦没者の部落別分布

第四節

農業の発展と農村の暮らし 二五三  
 出石川治水対策の進展 小野川の改修 出石の過疎現象と農業比重の推

第四章

大正期の出石

この章のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・三〇

第一節

大正デモクラシーと出石

1 デモクラシーの但馬への浸透・・・・・・・・三三

移 養蚕製糸業の消長 出石・室埴・小坂・神美の地域類型 大地主の成長 親方子方制度 大地主

第五節

小坂村の耕地整理

耕地整理の背景 耕地整理前の状態 田刈惣右衛門の構想 耕地整理の設計概要 工事の実施と成果 出石・神美・小坂にまたがる四部落の耕地整理

第六節

交通機関の立ち後れと商工業の停滞

不便な出石の交通事情 但馬に向かう鉄道ルート 空しかった出石の陳情 山陰線の開通 電信・電話の開通 商工業の停滞

第七節

社会の諸相

出石の大名行列 出石初午祭 有子稲荷富くじ騒動事件 大疑獄日糖事件 永楽館のあゆみ 出石の野球

斎藤隆夫と但馬政界 原敬内閣と普選運動 出石町の青年グループ

出石郡立憲青年党 青年党と社会変革運動 電燈料金値下げ運動

2 地域発展への夢 . . . . . 三四八

出石郡の産業 山田・豊岡線 出石鉄道と山田・若桜線 但馬師範学

校問題

第二節 町と農村の改善 . . . . . 三六三

1 出石町の改善事業 . . . . . 三六三

町立女子技芸学校昇格問題 出石町外六箇村実科高等女学校組合設立

杞柳製品の発展 陶磁器(出石焼)の停滞 絹織物の勃興

2 神美村・室埴村・小坂村の農業改善構想 . . . . . 三七四

出石地域の農林業 村部経済の不振 平尾源太夫村長の農業改善 平

尾源太夫の将来構想

第三節 社会生活の近代化 . . . . . 三六六

電燈のはじまり 入会山の分割 福居堤防の争論 松畷堤防の争論

北但大震災と出石 村方の年中行事

## 第五章 近代出石の教育と文化

この章のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 四一〇

第一節 学校教育の進展と変遷・・・・・・・・・・・・・・・・ 四一三

学制の公布と新小学校の設立 開校時の状況と弘道小学校の新築 初期

小学校の制度と内容 教育制度の確立と進展 町立女子技芸学校と大正

期の教育 昭和前期・戦時下の教育

第二節 学問・教育界への進出と活躍・・・・・・・・・・・・ 四一六

出石人の中央進出 加藤弘之 桜井勉 木村熊二 巖本善治 田

中壤 桜井恒次郎

第三節 宗教・芸術その他・・・・・・・・・・・・・・・・ 四二五

廃仏毀釈と寺院の統廃 神社と神道教務所 牧宗宗寿と精畊宗侃 出

石雑誌・但馬雑誌の刊行 松井昇と小坂象堂 近藤朔風・中村烏堂・小

林秀雄

第四節 出石焼の改良と諸窯の変遷・・・・・・・・・・・・ 四二七

盈進社の設立と出石焼の改良 明治期諸窯の経営 高岡焼と溪司焼

第五節

試験所の設置と出石焼の改良 出石焼の諸案と作品 五八

鶴山とコウノトリ 五八

出石と鶴山 明治の営巣と鶴山の活況 天然記念物指定と保護 コウ

ノトリの文芸・美術 鶴山の閉山と指定の解除 五八

第六章 昭和前期の出石

この章のあらまし 五三

第一節

昭和恐慌と満州事変 五三

青年党の地方政界進出 寺町の火災と区画整理 町村税の滞納と納税組合 不況下の出石実科高女充実問題 浜口内閣と森本町長 教員給与引き下げ問題 恐慌下の電燈料金値下げ運動 町村組合経営電燈構想 鉄道請願と出石鉄道の開通 経営難の出石鉄道 満州事変と戦時色 縮緬工業の発展 県立窯作業所と出石焼 商工会の不況克服への営み 公共土木事業の進展 カフェーの出現 永楽館と大衆文化

第二節

農業恐慌と農村の経済更生 五九

農業恐慌と出石地域 小作争議と自作農創設事業 自作農創設事業の展開 小坂村の村内調和への努力 大耕地整理の進行 部落農会の奨励

第三節

小坂村長砂部落農会 農村経済の自力更生 室埴村と小坂村の経済更生  
 事業 室戸台風の被害と復旧 共有林野の分割 . . . . . 三六七

戦時体制の進展 . . . . . 三六七

斎藤隆夫と翼賛選挙 戦争と国民動員 供出と配給 倭約と国防献金  
 戦時下の出石焼と杞柳製品 出石鉄道の撤収 学童疎開の受け入れ . . . . . 三六七

第七章

戦後の出石

この章のあらまし . . . . . 三六八

第一節

太平洋戦争の終結と民主化 . . . . . 三六八

天皇の終戦放送 復員と海外引き揚げ続く 非軍事化と民主化 荒廃  
 と窮乏のなかで 激しいインフレに苦しむ 新地方自治制度の発足 . . . . . 三六八

続々と新首長・議員誕生 自治体警察生まれる 自治体消防の発足 . . . . . 三六八

地方税制の改革 自治体警察の廃止 . . . . . 三六八

第二節

新教育制度の展開と福祉施策の進展 . . . . . 三六一

戦時教育体制の解体 連合軍の教育政策 六・三制教育の発足 教育  
 委員会制度の創設 出石高等学校の発足 中学校の統合 中学校建設  
 で町民税を増徴 公民館活動の展開 青年団の活躍 室埴村青年団が

|      |              |           |            |                |                |             |         |              |    |    |               |    |      |            |      |           |    |         |    |
|------|--------------|-----------|------------|----------------|----------------|-------------|---------|--------------|----|----|---------------|----|------|------------|------|-----------|----|---------|----|
| 世論調査 | 星雲会の活動       | 婦人会の活動    | 出石病院の誕生    | 既存建<br>物を町営住宅に | 庶民金融に町営公益質屋を開設 | 国民健康保険の実施   | 七五      |              |    |    |               |    |      |            |      |           |    |         |    |
| 第三節  | 農地改革と農業協同組合  | 農地改革の実施   | 農地委員会の活動   | 農地改革の進展        | 農業協同組合<br>の発足  | 七五          | 七五      |              |    |    |               |    |      |            |      |           |    |         |    |
| 第四節  | 特産業の復活と農業振興  | 出石ちりめんの復活 | 出石焼の再興     | 杞柳産業と鞆のう製品     | 農産物<br>の改良と増産  | 畜産物の復活と拡大   | 衰退する養蚕業 | 転換する林業<br>経営 | 七四 |    |               |    |      |            |      |           |    |         |    |
| 第五節  | 町村合併と新出石町の誕生 | 町村合併の促進   | 兵庫県の合併計画試案 | 県案への対応で波乱      | 中学<br>校統合問題の動き | 県の調停と合併協定   | 新出石町の誕生 | 七三           | 七三 |    |               |    |      |            |      |           |    |         |    |
| 第六節  | 合併当時の出石町のすがた | 面積・広ぼう    | 土地形態       | 人口・世帯数         | 業態別の世帯数        | 産業と<br>就業人口 | 税の負担状況  | 財産           | 負債 | 予算 | 銀行・会社・工場<br>等 | 学校 | 文化施設 | 保健・衛生・保育施設 | 道路延長 | 交通の<br>状況 | 通信 | 出石鉄道の変遷 | 七六 |



## 第八章 発展する出石

この章のあらまし・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・七四

第一節 新しい町づくり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・七六

基本計画の策定 新町建設計画の内容

第二節 町土の保全・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・七二

治山・治水の概要 谷山川放水路事業 小野川放水路事業

第三節 住みよい環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・七八

道路・橋梁等の整備 交通・通信の整備 簡易水道と上水道の新設

し尿処理 ごみ処理 町営住宅の建設 自治体消防の変遷

第四節 産業の振興・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・八三

農業の合理化 林業の振興 商業の振興 工業の振興 観光立町へ

のあゆみ

第五節 教育の充実・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・八一

1 学校教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・八一

施設の整備 教育の実践 学校給食

|   |   |                |                |
|---|---|----------------|----------------|
|   | 2 | 社会教育           | 六六             |
|   |   | 公民館のあゆみ        | 各種学級・教室等事業の展開  |
|   |   | 社会教育関係団体の動き    | 文化財と保護行政       |
|   |   | 社会体育の振興        | 社会体育施設の整備      |
| 3 |   | 人権の確立へ         | 九九三            |
|   |   | 同和对策事業の推進      | 同和行政と基本方針      |
|   |   | 教育の推進          | 出石町同和教育協議会のあゆみ |
|   |   | 同和行政と基本方針      | 隣保館            |
|   |   | 出石町同和教育協議会のあゆみ | 児童館            |
|   |   | 同和             | 回想十日町長事件       |
|   |   | 福祉の充実          | 九九二            |
|   |   | 国民健康保険と国民年金    | 出石町社会福祉協議会の活動  |
|   |   | 出石町社会福祉協議会の活動  | 民生委員協議会の活動     |
|   |   | 民生委員協議会の活動     | 九九七            |
|   |   | 第七節            | 二一世紀をめざして      |
|   |   | 出石町合併三〇周年記念事業  | 伊藤美術館の建設       |
|   |   | 伊藤美術館の建設       | 町民憲章の制定        |
|   |   | 町民憲章の制定        | 九九七            |
|   |   | 写真・表・図一覧       | 卷末             |